

ごあいさつ

本日はご来場賜り誠に有難うございます。

短い期間ではありますが、子供達は我々能楽師も驚くような、素晴らしい集中力でお稽古に臨んでくれました。その成果を皆様にお目に掛けられるのを嬉しく、また誇らしく思います。

この夏の経験をきっかけに、能というものを身近に感じ、いつかお子様連れでお能を観に能楽堂へ足を運んでいただける日が来ることを願っています。

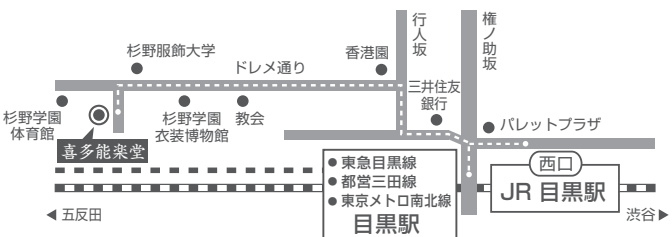
指導主任 友枝真也

指導 佐々木多門

大島輝久

佐藤寛泰

佐藤陽



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。  
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。  
※ 当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9  
Tel: 03-3491-8813

主催 公益財団法人十四世六平太記念財団  
(平成二十六年普及啓発事業)

平成二十六年 文化庁文化芸術振興補助金  
(伝統文化親子教室事業)

文化庁  
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

# 喜多能楽堂 夏休み親子能楽教室

## 発表会



平成二十六年八月二十三日(土)十二時  
十四世喜多六平太記念能楽堂

連吟

高砂

矢島亮太  
横田龍太郎

猩々

飯島和香奈  
廣子和里

独吟

高砂

林翔太

仕舞

老松

横田龍太郎

西王母

廣子和里

猩々

飯島和香奈

老松

矢島亮太

高砂

林翔太

番外仕舞

羽衣

佐々木多門

船弁慶

友枝真也

附祝言

## 曲目解説

高砂

阿蘇の宮の神主が高砂の裏で老人夫婦と出会い、高砂と住吉の松が「相生」といわれる由来を聞き、さらに住吉に赴いて、住吉明神の出現を拝し、寿福増長、国土安穩を祝います。

猩々

唐の国の高風という人が、靈夢に従って市に出で酒を売っていると、海中から猩々というものが現れて、高風に無尺蔵の酒壺を授け、酔って舞います。

老松

福岡県の太宰府の天満宮にある老松と飛梅によそえて盛代を祝福します。

西王母

中国の神仙である西王母が三千年に一度、花咲き実なる桃を帝に捧げて、その御代を祝福します。

羽衣

白龍という漁師が三保の松原で羽衣を拾いますが、その持ち主の天女の願いにより羽衣を返します。天女は喜んで天上界の舞樂を奏でながら天へと帰って行くのです。

船弁慶

源義経が兄頼朝に疎まれて西国に落ちて行くとき、静御前は別れを惜しみながらも都へ帰って行きます。大物浦から船に乗って海上に漕ぎ出しますが、壇ノ浦で滅びた平家の一門、なかでも平知盛の怨霊に悩まされますが、からくも逃れます。

【独吟・連吟】 能の中の一部分を謡うこと。独吟は一人で連吟は二人以上で謡います。

【仕舞】 能の一部分を、面・装束を着けずに、謡のみで舞うこと。本日の仕舞はそれぞれの曲の最後のクライマックスの部分です。